

大学教育再生加速プログラム(AP) 中間評価結果

整理番号	1	大学等名	徳島大学
テーマ	テーマ I アクティブ・ラーニング		

【総括評価】

A：計画どおりの取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を達成することが期待できる。

【コメント】

<優れている点>

- ・本取組においては、全学の新生を対象とした初年次教育科目「SIH 道場～アクティブ・ラーニング入門～」の取組において、効果的・効率的なアクティブ・ラーニング (AL)、学生の主体的学び、教員参加の広がり、教員の動機付けのいずれも進捗が見られ、評価できる。
- ・学生の意見を教育改革に取り入れるシステムを組み込んだ PDCA サイクルと、適切な外部評価に基づき、次年度に向けた改善を行う体制が構築されており、評価できる。
- ・SIH 道場については、学生へのアンケート調査、インタビュー調査の実施など継続的な改善が図られる仕組みを構築している。また、計画的な教員の担当割り当てなど、自立した運営ができるよう取り組んでおり、評価できる。
- ・テーマ別幹事校の取組として、全国の国公立大学が登録可能な SNS である「アクティブ・ラーニング・オンライン」の構築を行い、平成 29 年 4 月からウェブで公開しており、意欲的で高い効果の期待できる取組として評価できる。

<改善を要する点>

- ・「SIH 道場」受講 1 年後の調査では「SIH 道場で学んだ内容のうち役立っている項目」に「主体的学修習慣を身につけること」をあげた割合がわずか 1 % に止まっているなど、「SIH 道場」のあり方には課題が残されている。AL を主体的な学修時間の増加に結び付けるためには、今回の取組を精査し、今後の実施方法・内容等に検討を加えることが必要である。
- ・SIH 道場の成果が他の科目の改善にどのように活用されているか、どのように SIH 道場と連携して担当教員の職能開発 (FD) が実施されているのかが不明確である。また、中間評価調書においては SIH 道場を中心として PDCA サイクルが示されているが、専門科目の実施体制や PDCA サイクルが見えてこない。さらに、成果発表も一般の教員からの専門教育に関連する取組の発表がないようである。教育改善事例の研究発表を教員の業績として評価するシステムを構築し、教養教育や専門教育を担当する教員からの教育研究発表を後押しすることが必要である。